

香葉



1975

NO. 6

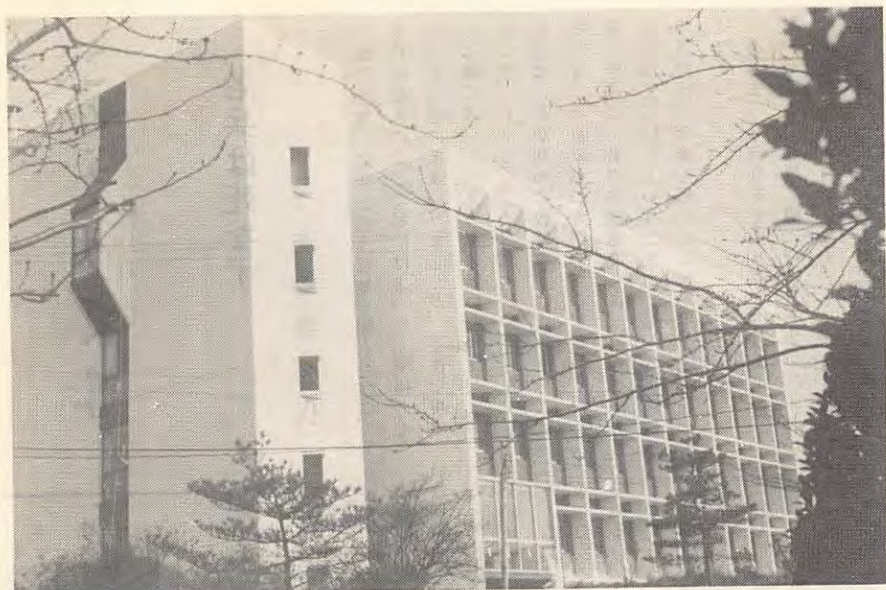


目 次

グ ラ ビ ア	1
ごくろうさま	(安藤先生・井口先生特集) 2
写真	奥村博之
「香 報 室」	4
コーヨースポットライト	(タマーラ) 8
「展 望」	10
覚え書(六)一女専・短大小史	14
五十年年度総会報告	16
写真	奥村博之
「おたより」	18
母校ニュース	19
編 集 後 記	20

表紙……………関 頼武

カット……………成川 勝子



3 号 館



卒業午・晩餐会 50.3.19

ごくろうさま

老兵は死なず

安藤寿々代

私は今迄、定年と言う言葉を聞くたびに、それは他人のことで私にはまったく関係のないことと思つてまいりましたが、不快な現実には勝てず、とうとう私の番になつてしまいました。しかし、今なお、私の胸中に存在するものは、私が初めて教壇の上に立つた時の氣持です。それは私の専門とする音楽（宗教音楽）を通じ、我々の後輩たちに、自己の宗教心を伝えていくということだったので。この氣持は、今後も私の心に強く生き続けることとしよう。

過ぎ去つた自分史を振り返つてみますと、私の心にこの氣持を植へ付けて下さつた三人の偉大な先達がおられます。それは内村鑑三先生とその弟子でもあつた私の叔父、南原繁

本年三月で一応定年を迎えられた安藤寿々代先生、井口安喜子先生に特にお願いして、これまでの思い出、感想等を、卒業生むけに書いていただきました。なお、両先生とも今後も引きつづいて教壇に立たれます。
安藤先生、井口先生、いつまでもお若く、お元気です。
(題字は下田学長)

そして私の大先輩でありました坂田祐先生です。今は亡きこの三人の心に触れたことが現在の私に到らしめたのではないかと思われなりません。

私が十才の時でした。内村先生が叔父の家を訪問され、食事が終つて団樂のひと時、私は皆の前で讃美歌を歌わされました。歌が終ると内村先生は私の頭にあの暖かい大きな手をのせて、「今晚の食事は大変おいしかったです。なによりも寿々代さんの歌が一番おいしかったです」と言われました。その時以来、私は事あるたびに、「おいしい歌」とはどの様なものであるかと考えて参りました。そしてその都度、「おいしい歌」（宗教音楽）を私なりの味付けで料理し、後輩方に食べて戴こうと努力して参りました。

このエピソードもさることながら、私を現在に到らしめて下さつた、もう一つものは関東学院及び捜真女学校の先輩や同僚そして

後輩達の助力によるのだと信じております。その助力なくして、現在の私はなかつたことただただ皆様に感謝する次第です。

長かつた関東学院の生活の中で、私が一番思い出深いものが一つあります。それは林前学長のもとで、私の専門外でありました幼児教育科を設立したことです。その過程において様々な事がありました。時には私の一方的な努力が、皆様に多大な迷惑をおかけしたことと思われます。この場をお借りしまして心からおわび申し上げます。

今年の三月には第一回の卒業生を幼児教育科から送り出すことが出来ましたことは、私にとりまして夢の様な思いが致します。

私は私なりにこの幼児教育科に、坂田先生の教育精神を引き継ぐ努力をして来たつもりであります。教育以前の最も大切な「人」になることによつて、本当の教育の価値が得られるのではないかと思われれてなりません。

第一線からは退いたものの、まだまだ「老兵は死なず」と言つた心境です。

残り少なくなつた人生を存分に生きようと思ひつゝ……。

お元氣ですか

井口安喜子

このたびは御多忙の中を御遠路はるばる大勢の方々が馳せ参じて下さいましてあの様な盛會を誠に有難う存じました。誌上を借りておいて頂けませんでした方々へも併せて深く感謝申し上げます。二昔前からのなつかしいお顔、お顔、お顔、まだ目のあたりにちらつきます。よきお母様、奥様になられたお姿もたのしく拝見させて頂きました。

この間、さがし物をしていましたら二十年前の短大初期の先生方と事務の方一同の懐しい写真が出てきました。何て皆様のお若いこと。古きよき時代、短大が胎動を覚える頃だったのでしょうか。総勢十七名（欠席者もおります）前列中央に初代学院長、故坂田先生その左右に白山、相川両学長をはじめ時田先生、松垣先生、柴先生、やめられた光畑先生のお顔など、つい昨日のことの様に思われ、うたた人生の無常を感じました。それにしても今日、ハンソン山の跡に短大の体育館、三号館が堂々と聳え立とうなど、その当時夢に

も考えなかったことでした。

四月以来、早朝より朝露をふみしめて静かな散歩を楽しんでおりますが、この頃では大切な日課となり心身ともに甦ります。海の方から帰り、夕照橋に立ちますと目前の緑の中に聳え立つ三号館の白い建物は近き将来の短大の象徴の様で、力強さを覚えます。

今年には国際婦人年で、色々の分野で女性の地位向上が叫ばれておりますが、皆様もそれぞれの場所で御活躍のこととお喜び申し上げます。光陰矢の如しとはよく言ったものと同じ過ぎ去った二昔を静かに顧みまして、まことに感無量のものでございます。

私の中居先生の奥様の後任もかねて松垣先生より本学へ導かれました当初は、戦後のことで食品の数も少なく調理の材料は手にはいり難く、研究のためには新宿の二幸へよく足を運んだものでございます。当時は助手も副手もおりませんで一週間前に材料を書いたものをお当番の方にお渡しして揃えて頂いたのですが、じつによく皆様御協力下さいましたことを、今でも感謝致しております。その頃、御活躍下さった方の中に現在の香葉会の役員の方、西村、相吉両夫人もおられました。

先き頃、ヨーロッパ七ヶ国の旅をしてまい

りましたが、現在は公害で汚染されているとはいえ、やはり日本が一番いいと思えました。この生れ育った、かけがえのない国を大切に子孫に受けついで行くのはお若い皆様方の一生の大事なお仕事です。時代は如何に移りましようとも何事にも負けないでがんばって下さい。最後に短大をはじめ関東学院代々の院長、学長、現旧教職員、卒業生皆様方のみ栄えを共に御祈り申し上げます。（追記、香葉会からの皆様の御厚志深謝申し上げます。）



6月29日記念感謝会会場にて

香報室



この欄は、卒業生の皆様の消息、感想文、等の発表の場として用意いたしました。短大香葉会「香葉」編集局宛、次号への原稿を随時お送り頂きたくお願いいたします。

夫人プログラム

大谷 俊夫

「国際会議を成功させるには、夫人プログラムの成功を得よ。」と言われる程、夫人プログラムは私共、国際会議を運営する者にとつて力を入れる行事であります。通常、茶道、華道、観光旅行、観劇、人形造り、着物ショウ、折紙……等であり、日本の伝統文化を広く海外の人々に知らせ楽しんでいただいております。会議の成功に役立っております。しかし毎年プリンスホテルだけでも三十件ほど国際会議が開催されており、最近ややマンネリズムに陥り気味で新しい婦人プログラムを創り出したく資料を集めております。会議出席の外国参加者の夫人と日本の夫人がもっと親しく打ちとけ合い、アップツードイトな日本を紹介できるようなプログラムを組みたいと思っております。なにか良いアイデアあるいはご自身の参加した夫人プログラム、パーティ等で成功した例などをお知らせいただければ幸いです。（東京プリンスホテル国際会議担当）

（短英二・三十六年卒）

病院での

クリスマス・イヴ

清田 恵美子

九月末、検査に行つたまま入院し、十二月初め一応退院した。二週間を自宅で過ごし、クリスマス・イブにまた入院した。ライナック（X線）に続く、ラジウム加療のためである。丁度三時のおやつ頃、可愛いケーキの小箱が看護婦の手で配られた。思いがけないプレゼントに素直に大喜びした。箱の中にはスポンジケーキの上に、ピンクの兎がのせられ、柊の葉が添えられてあつた。皆それぞれに「可愛い！」と歓声をあげた。金ピカしたモール・色あざやかな飾りのツリーが気分を盛り上げる。音楽はないけれど、クリスマス・イブをやつと思ひ出した患者のそばで、持参した聖書をひらく——しばらく教会ともご無沙汰していた私には、心に残るイブになるだろうと感謝する。静かな、静かなクリスマス・イブをベットの上で……消灯九時

（短家・二十八年卒 旧磯村）

夢の同窓会

早崎 真代

自慢の一つではないけれど、まだ一度も同窓会に出席したことのない私です。寮生活していたせいもあり卒業すると岐阜へ帰郷、結婚してから広島と、学院からは遠ざかるばかり、現在は大阪高槻市に落着いているところ。学生時代がたまたまなくなつかしくて、同窓会の通知をうけとるたびに飛んで行きたい気持ちでいっぱい。主人に「出席してもいい?」と尋ねると「いいよ、どこで?」「横浜」「遠くのため」これでやむなく欠席となるわけですが、子供達の留守番がいやなのかな、それとも交通費?私一人ふくれつつらをしています。といって主人の方は毎年一回、同窓生仲間十人といういろいろな場所、岡山とか浜松とかどんなに遠くても飛んで行って楽しんでます。どうして女の私だけが自由にならないのかとくやしくなります。どうしても家庭というものに縛られてしまうのです。こんな具合なので「音楽」楽しみに読ませてもらっています。私のように出席したくても出来ない同窓生

の方々、この紙面を借りて、大いに語り合いたいですね。

(短英・三十九年卒)

「チントンシヤン」

久垣 万理

日本人の生活全体は、想像以上に西洋風になつていて何か恐ろしい気がいたします。

先日、箏を習い始めた二十二才の女性に、どの位邦楽の知識があるかを尋ねましたら、知識どころか殆ど耳にする機会がないのだそうです。能や歌舞伎は、まともに見たことがなく、テレビ、ラジオの邦楽番組も、やってゐる事さえ知らなかったと言つたのです。思えば幼稚園から高校まで、習うのは西洋音楽だけですから仕方が無いのかもしれない。ですから、何も軒並み、コロリンシヤンだのチントンシヤンとやらねばならないと言つたのはありませんが、今の様な西洋音楽専門家のみによる音楽教育は随分おかしい事だと思ひます。西洋風も、ほどほどにしないと醜いものです。箏歌の風情を解せばこんなチグハグな装いは出来ないと思つたのですが、それには

花屋さんにも庭にも洋種の花が多いこの頃、桜や梅、椿、山吹、萩などの有触れた、けれども日本の心を伝える為に欠かせない花たちの四季折々の有様に、意識して目を向けてみたりする事が必要ではないでしょうか。特に母親を「ママ」と呼んで育っている小さい人達に、伝えなければならぬ風物、習慣が沢山ある様に思います。

(短国・四十六年卒)

What do you work
with your life?

船津 由美子

以前、読んだ三浦綾子さんの随筆集の中に「子供こそが本当の寂しさを知っているのではないだろうか」という意味の事が書かれてあり、ハッとさせられたことがあります。私の子供時代もそうだったからです。その寂しさは、今から約四年前、イエス・キリストを信じるまで続きました。

日本アッセンブリー教団、金沢キリスト教会が今、私の勤め先であり、又所属している教会です。昨年、今年と、日曜学校教師の集

まりで天城山荘に行く機会が与えられました。
なつかしのインディアン刈りの山。そしてソ
フトクリームも。

“What do you work with your life?”

これはあるアメリカ人牧師の説教の中で何
度も繰り返された言葉で、忘れることができ
ません。「あなたはあなたの人生において何
をなすのか？」現在結婚し、妻として母とし
て我身を忘れて働いている方も、又一つの仕
事に打ち込んでいる方も、ハタと手を休めて
答える価値のある質問ではないでしょうか。

イエス・キリストは聖書の中で一人の女性に
言いました。「あなたはいろいろなことを心
配して、気を使っています。しかし、どうし
ても必要なことはわずかです。いや、一つだ
けです」学寮のクリスマスマス礼拝において、柳
生先生が「朽ちゆく木、草、わらの人生では
なく、金、銀、宝石の人生を造り上げなけれ
ばならない」と語られたのも思い出します。
では自分にこの質問の矛先が向けられると
するならば、聖書の中において、ペテロが美
しの門の所で言った言葉を少し借ります。「私
は何も持っていない。しかし、イエス・キ
リストの教いだけは持っています」神の愛と
恵みによってクリスト者とさせて頂いたこと

に、心の底からの喜びと感謝が尽きないので
す。
(短英・四十八年卒)

新米社員

元良 満江

今にして思うのです。(短大の白亜の校舎は
美しかったと、もつとまじめにいろいろな事
を学んでおけばよかったと)なんて乙女チックな
感傷になど耽っている暇はない近頃の私です。

とにかく毎日忙しくって、その上新米なの
ですから。電話が鳴ればビクツとし、お客様
が見えれば冷汗をかきながらシドロモドロの
応対に立ち、しかも数知れぬ失敗を飽きもせ
ず繰り返しています。

家に帰れば自己嫌悪もそこそこに、早くも
「おやすみなさあーい。」

その上、時は春闘、我が社は今も闘争中で
団交に参加したり、ストをしたりで、「現実
はキビシイなあ」って身にしみました。

「ああ、短大の時はやかった」などとかりに
も懐古的な事は申しませんが、過ぎ去った時
というのは本当に美しく思えるものですね。

(短大・五十年卒)

来年度の総会予定

6月の最終日曜に行います。6月中
の朝日新聞紙上に掲載されますので
同窓会欄にご注意下さい。

幼稚園生活

相沢 洋子

私は幼稚園の新米先生——四才児、三十三
名の子ども達を受け持つて、まだほんの数ヶ
月しかたっていない。初めのうちは幼稚園
の仕事に追われ、ややもすると自分の時間

なくなるほどで、家に帰ると「疲れた疲れた」と連発し、ひたすらに眠り続けていた毎日でした。学生時代、土曜、日曜日が休みだったせいもあって、仕事を始めてからは一週間がなんと長く感じられたことでしょう。

私と同じように、この四月に新しく幼稚園に入ってきた子ども達も初めはメソメソ泣いていたり、友達がやる事を隅の方でポツンとながめていたりしたけれど、そんな子も今ではすっかり幼稚園のテンポに慣れて我がもの顔をして遊んでいます。

「おはよう」という挨拶で一日が始まり、すぐに外に飛び出していく子、粘土や絵を始める子、それぞれの遊びにとりかかります。そして怒ったり、泣いたり笑ったりして一日中大騒ぎをします。みんなが帰ってしまおうとそれまでの騒がしさや喚声がまるでウソのように静まりかえってしまいます。そんな時、ホッとすると同時に虚しい気持ちにもなったりします。

小さい頃からあこがれていた幼稚園の先生もしかしたら私には向いていないのでは……と思いがながらも、たくさんの子とも達にかこまれて、きょうも元気に遊び回っている私です。

(短幼・五十年卒)

平潟・キャンパス

国文科では、毎年一回「平潟」を発行しています。国文科卒の方、近況を、どしどしお寄せ下さい。(執筆者には、一冊差し上げます)

「平潟」ご希望の方は、住所・氏名・卒業年度を記入のうえ、会費四百円(切手可)を添えて、国文研究室宛にお送り下さい。

英文科では、学生の研究発表の場として、英文科誌「Campus」(語法・作家研究……)を年一回発行しております。今年で第六号を迎えます。卒業生の皆様方にはお届けしておりませんが、大学にお見えのさいには一度ご覧下さい。

田辺・成川記



「香葉への賛助金のお願い」

「香葉」6号の出来はいかがでしょうか。一冊の「香葉」があなたのお手許に届くまでには、編集委員の方達の大変なご苦労があるのですが、最近の紙代、印刷代等の高騰、さらに(予定されている)郵送料の値上げなどで、「香葉」発行の諸費用も思うようにならず、委員の方々も、いろいろな制約を受けざるをえません。卒業生総数はすでに5,000名を越え、さらに毎年約600名の新会員が増えていく現状から、心ならずも今号より、皆様からの賛助をお願いしようということになりました。(一口500円——とじ込みの振込用紙で、お気持ちのあるだけ)どうか、この主旨を十分おくみとりの上、御協力をいただきたく存じます。

コーヨースポットライト

毎回同窓生一人に登場していただき、生活・仕事・趣味などを通しての経験談を書いていただくページです。

このページに登場していただく同窓生を短大卒業会「香葉」編集局宛、推薦してください。

タマール

中根悦子

モスクワに赴任していた主人のもとへ娘と私が着いたのは、四年前の暮だった。モスクワの生活は、長い冬の間、欠かす事の出来ない毛皮の帽子にコート、厚い皮の手袋に長靴等を揃える事から始まる。困った事に日本人のサイズに合うものはなかなかみつからないのだ。もっとも、建物の中には暖房が完備しているので真冬でも半袖姿で過ごす事ができる。

私達は、二週間ホテルで生活をしてから、バビエロハ通りのアパートに引っ越した。外国人専用のアパートには、ソ連人のお手伝いさんが沢山出入りしていたが、私共の住いの向い側にも、タマールという色白で金髪の太ったおばさんがいた。彼女は週五日バスで通ってきていたが、分厚いコートを羽織って赤ん坊を乳母車に乗せ、

買物に出掛けて行くのによく会った。誰にでもニコニコして「ズラストエ」と挨拶し、こちらが立ち止まれば、いくらでも話したがらる。お天気が悪い。仕事は今済んだ。週末にはお客さんで大変だ等と手振り身振りで言う。眉をひそめて悲しそうな表情をしたと思うと両手を上下して太った体をゆらせながら大笑いする。向いの奥さんはタマールは仕事が遅くて家の中がちつとも片付かないとこぼしている。例えば、洗濯機が回っている間中、傍で鼻歌を歌いながら待っている。天火でパンを焼いている時には電話が鳴っても台所から出てこない。昼過ぎ



に赤ん坊を連れて散歩に出たら、夕方まで帰らない事がよくある。とがめられても「ニチポー」（気にしなさんな）と言い返すそう。彼女がポリシケヤピロシキを楽しそうに作っている時、「分量はどの位」と私が尋ねたら、首をすくめて適当だと答えた。出来上り具合が毎回違うの

が楽しみなのだと言って大笑いした。

帰国が近づいた時、私がどう説明しようかと辞書を片手に話したすと、タマールは頷いて私の肩に手を置き、簡単に「ダモイ・トーキョー」と言って涙ぐんだ姿が印象的だった。

イワノブナ先生

六月のモスクワは実に美しい。冬から一足飛びに初夏が訪れる。市内は新緑に包まれ、南から運ばれてきた花の苗が道路や公園を埋めつくす。人々は日光を求めて野原や川辺に集まる。市内の幼稚園や学校は夏期休暇にはいり、大人も交代で一ヶ月の休みをとる。郊外のキャンピングや避暑地に出かけるのだ。その春から週一度、娘にピアノを教えに来て下さっていたイワノブナ先生も別荘へ行くので一ヶ月休みたいと言った。彼女は母親と二人でアパートに住んで音楽学校の先生をするかたわら、外国人の家庭でも教えていた。英語が少し解るしやさしい人柄なので娘は先生が大好きだった。小柄で美しい顔立ちの彼女は、おけいこの間、かなり厳しい口調で教えていたが、終つて



市場で買物

私が挨拶に出ると必ずお茶を所望した。私がサモアールを飾ってくると「これはお茶の時に使うもので飾りではない」と笑い、ロシヤ風なお茶のいれ方を丁寧に教えてくれた。秋から冬にかけてのモスクワは、遠出が困難になるので人々を劇場や美術館へと集めるようだ。イワノブナ先生は芸術的な催し物に興味を示して、有名なバレリーナやオペラ歌手の名を沢山あげ、是非行くよう熱心にすすめた。私達がポリシヨイ劇場やクレムリン大会劇場のプログラムを見せると目を輝かせて「素晴らしい」と力強く叫んだ。帰国が近づいた私達にトレチャコフやブーシキン美術館へもう一度行くように言い、チエホフの家やツルゲルネフの墓にも忘れず立寄るよう付け加えた。

モスクワ滞在中には、他にも色々なソ連人に出会った。アパートに入入りする電気や水道工事の人と大工さんは大きな体格で力があったが、文盲の人が多く、簡単な故障についても大声で話し合いながら仕事をした。終わると代金としてウオッカをくれと両手をこすり赤い顔をして言ったものだ。ピアノの調律師は仕事が済むと、部屋の四方の壁に手と耳をあてて、乾燥度やスチームのパイプの位置など調べてピアノのある場所が適当かどうか検討した。市場のおばあさんは、キエフから運んでくる、ほうれん草を日本人が好んで買う事を知って新聞紙にくるんでそつと手渡してくれた。吹雪の夜、ダンスパーティーの掃りにタクシーが来なくて困っていた主人の秘書を車で送ったが、彼女の夫は恐縮して終始無言だった。

革命後の彼等の生活は、すいぶん楽になったと聞く。然し、厳しい寒さと物資の不足に耐えて労働を続ける彼等は実に強い人達だ。外国人に対する偏見は全くなく、むしろ親しみ易く世話好きで、単純で無邪気な人が多いと私は思った。(女専英二十四年卒田時田)

展 望



このページは先生方の近況や編集委員が先生にインタビューしたりしたものを納めました。

八人の孫



鳥越先生

六月十日、私達は別館の長い階段を登りつめ、授業を終えられて、ほっとしていらつしやる鳥越先生の研究室のドアをノックした。

そこには、シックなワンピース姿の先生、テーブルには季節のくだものとお手製のシュークリームがおかれてあった。

やはり家政科の先生でいらつしやるだけあって、ご自分のお仕立てのワンピースを着用しておられた。

先生はご自分のばかりでなく、お孫さんの洋服はもちろん、お嬢さんとお嫁さんのワンピースや、マクニティーまでも作られるとか……。布地の買物は主に横浜駅周辺で、流石に左右されないものを買いだめておくとか……。「マキシやミディ」が流行している

今日この頃ですが、短大に勤め初めた昭和三十年代の服装に似ていて、学生を見ていると服装の変遷史を見ている様ですよ。」

昨年は、お孫さんの浴衣も作られたとか。しかし、お孫さんは八人もいるので、一回に何枚も仕立てなくてはと、うれしい悲鳴を出されておりました。

うれしい悲鳴と言えば、よくおいしい物を外に食べに行かれる、日曜日などは幼稚園から生後三ヶ月までのお孫さん相手に、おままことやせかえのお相手、そしてお馬さんになったりの日々だそうです。

子供って純真でかわいいですね、でも土・日曜日に來られてうれしく、帰ってうれいものですよ。」とおっしゃる先生はとても楽しそうでした。

最近、お菓子作りに凝っていられる先生はお孫さんのおやつも作ってあげられるとかで私達にも焼いて来て下さいました。

又今年も香葉会の総会がありました。「同窓会で卒業生に会うのが一番楽しいことですね、毎年母の日に行なわれるクラス会もあるんですよ。」とおっしゃられた母の日という言葉が先生のイメージにぴったりで、とても印象に残りました。

(小糸・高橋記)

ある談話

岡松先生

六月十一日(木)、国文研究室。三人三様世代の違いのせいかシラケきつた雰囲気の中で談話会が始まりました。

まず、趣味(スポーツ・音楽……)などについてお聞きしたいと思います。「タイシタコトハナイナア。」明日のスポーツ大会に先生は卓球をなさるそうですね。「ソレモネー。アノ程度ナラ体力的ニ言ッテテキルすばーッダト思ッテネ。」家ではどうですか。「老人趣味デ悪インタガ、散歩バカリナンダ。鎌倉ノ大仏ノはいきんぐこーすノ傍ダカラ。無理シ



テ体ヲ鍛エヨウトハ思ワナイナア。」

音楽は。「手回シ蓄音機デベーとーべんヲ聞イテイタ。SP盤・七十八回転。学生時代五

・六時間レコーどヲ続ケサマニ聞イテ酔ッパ
ラツタミタイニナッテイタ。」

旅は。「ソレモタイシタコトハナイナア。」

酒は。「少シバカリ、憂サバラシニネ。」

次は日常生活についてお聞きしました。「家内ト子供ト話ヲスルノハ夕食時。夕食後二時間位寝ル。子供ト家内ハ、ソノ間てればヲ見タリシテイルワケデスガ、ボクは午後十時頃起き上ッテ、本ヲ読ムトカ原稿ヲ書クトカ自分ノ時間ニアテテイルンデスヨ。ソレモ考エテミタラ二十年グライ続イテイイル。」理由ハ体力ガナイ。昼ノ授業デクタビレルカラ。夜、目ガ醒メタ時、学校ノコトハスベテ忘レテ、スゴクイイ気持ニナッテ本ヲ読メルネエ。」(電話をかける時は、夜十時か十一時頃にしてくださいというのが先生の希望)

なぜ教師になられたのですか。「仏文科ニ在学シテイタ時点デハじやーなりずむ関係ニ行クツモリダツタガ、国文科ニ入り直シテカラ教師ニナロウト思ッタ。学校ノ先生ヲシヨウトイウコトト小説ヲ書コウトイウ気持ハ、ホトンド同時ニオコッタ。コレハ自分ノ氣質

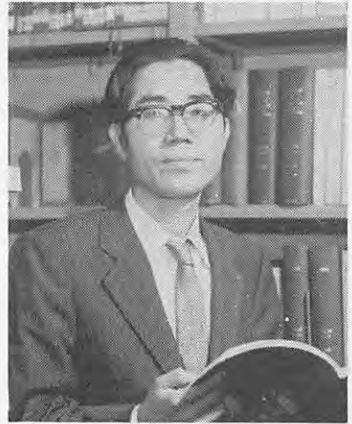
ニアツタ生活ダツタト思ウ。出版界ニ入ツタ
トシカラ、今頃ハ体ヲ壊シテオ陀仏ダツタロ
ウヨ」

理想の女性とは、「古クサイ人。」先生の奥様は俳句をたしなまれるそうですね。「家内トノ食イ物ノ趣味ノ一致トイウ点デハ大変タスカツテイイルネ。」(たとえば、お子さん(中二女子)の好むものはシュークリーム系、ラーメン系、ギョーザ系。先生と奥さんの好む物は日本のな料理、セリ、タケノコ、マツタケといった具合らしい。)

先生は、学生時代の友人と毎月一回ぐらい人情風俗の研究会を持たれるそうですね。「ダイタイ何ヲ話シテイイルカトイウト、日常生活ノコト細カナコト。タトエバ、子供が生マレテカラハ夫婦の寝室ハドノヨウニ変ルカナド。相モ変ルヲ同室同床カラ同室別床へ、サラニハ別室モアル。マタ、子供ヲハサンデ三本川デ寝ルノモイル。イロイロアツテ面白イヨ」(先生のところでは、別室だそうですね。)

堅いお話をなさる先生から、これだけのことを、うかがうことができたことは、喜ばしいことでした。

(田辺・成川記)



「ういゝあゝ6」^{シックス}

徳永先生

初夏の風が若葉の香りを運んでくる黄昏時
外の風景に反して急に現実に引き戻されるよ
うな会議室で、二時間近くを徳永先生におつ
きあいしていただきました。

先生は、十四歳迄、回りを海に囲まれた緑
の多い、鉄砲伝来などで歴史的にも有名な種
ヶ島で過ごされました。小さい頃より先生の
お父様は、おもいきり勉強をしてみたかった

ということを常々おっしゃって、その果たせ
なかつた夢を勉強好きの先生に託されたそ
うです。

二十三歳頃に病院生活を長期に渡って送ら
ねばならなかつた時に、病床のつれづれに俳
句を何句か作られ、その時の作品の一部を披
露していただきました。

「草分けて 学董輩と舞い出づる」

「蕙若葉 窓辺にへッセ誦唱す」

「春浅し 果箱に白き卵見ゆ」

又、詩集もよく読まれ、その中でT・Sエリ
オットの詩——足音が記憶の中に、きみの言
葉がぼくの心にこだまする——との出会いが
英語の教師になる決定的な事柄だそうです。
そして昭和三十九年御結婚。先生が二十八歳
奥様二十四歳「初めて奥様に会った時の印象
は？」「健康ハツラツ頼もしい感じがしまし
たね」

婚約中、最初に奥様にさしあげた物が英文
の「We are six」… 私達は六人家族という
本だそうです。現在、海と山に囲まれた声名
に三男一女のお子様との六人家族…

「家の中がにぎやかなってものじゃないです
よ。子供は自由奔放・型にはめないで育てて
います。柔軟性のある人間になってほしいで

すからね。」

本校に來られたのは昭和四十二年、まだ当
時は学生数も現在の二分の一の約六百名位だ
つたそうです。四十八年の夏には本学の教員海
外留学制度の第一号として、約一ヶ月間イギリ
スへ研修に行かれました。そこでは、森のコー
テージなどのあるロンドンの郊外でいかにも
イギリスらしいある田園生活を送られました。

研修外の時間は、観光地以外の場所に極力
出掛け、生の英語に接する機会を多く持たれ
貴重な経験を積まれました。「生の英語を話せ
たということが英語を教えている教師として
非常にプラスになりました。でも見たいもの
聞きたいことが沢山有り、二年も三年もいた
かったですよ。」

普段アルバムの寄せ書き等に、とてもロマ
ンチックな詩を載せて下さる先生の一面を再
確認するとともに、御家庭においては、子煩
悩な良きお父様ぶりが感じられました。

(田中・高橋・田辺 記)

「バン」

望月先生

学芸大学駅近くの明るいこじんまりとした喫茶店「バン」でお話しを伺いました。こゝは、先生が週四日は立ち寄られる五年間の常連で学校から帰宅されるまでのワンクッションを置く為に必要な息抜きの場所です。いつも一人でコーヒーを飲み、ぼんやりしているのが好きだそうです。おいしいコーヒーをご馳走になりながら幼児教育について話していただきました。

「組織の発展というのは分化と統合の過程だと思ふのです。つまり未分化から分化へ、更に再体制化へということですね。人間の行動の発達がそうですね。たとえば赤ちゃんにユラユラ動くものを見せると、目だけでなく、体全体を動くものの方へいちいち向けるでしょう。幼児をお医者さんへ連れて行くときよくあることですが、先に診てもらっている子供が泣くと、待っている子供も泣き出すでしょう。これを自己中心性（発達心理学でいう自己中心性は、わがままの意味ではなくて自他の未

分化ということですね」といいますね。ところが、より年長になってくると、目だけで物を追うことができる、手は足まで動かさなくてもちゃんと仕事をするようになる、というように各領域の機能が分化してくるわけです。人間関係についても、他人と自分は違うんだ、他人は自分が思うようには思わないものだ、というように自己と他者とが分化してきます。けれども発達は、ただ細かく分かれてしまつたところとまらず、もう一度統合されていく。今度は、ただの全体運動ではなく、たとえば目で楽譜を追いつながら指は自然にピアノのキーの上を動いていくように、自他の区別が円満な人間関係のもとになっていくように、一つ一つの部分が各の機能を果しながら、よ



り高次の、全体としてまとまりのある行動を可能にしていくわけです。家の子供みたいに、テレビは「水戸黄門」をつけて、ラジオでは「巨人—ヤクルト戦」をかけて、算数の宿題をしているようなのはどういうことになっていくのかよく分かりませんが、幼児教育と必要とするのですが、各分野それぞれに充実することが全体としてまとまっていくことの基礎になっていくと思います。幼児教育科というような、既設の各科とちよつと異なる性質の科をかかえたいうちの学校全体についても同じようなことがいえるかもしれませんね。」

最後にご家族について伺いました。御主人との出会いは、先生が大学時代教育実習と一緒に組んだのがきっかけで、学生結婚のはしりだとか。小学校五年生の男のお子様は、鉄道と野球が大好きで、本まで買って研究しているとのこと。ちよつと固いお話しでしたが先生の気さくなお話しぶり、場所柄のせい

(田中・成川記)

覚え書(六)

— 女専・短大小史 —

上市 二一郎

短大小史も昭和二十七年の夏休みに入るの
であるが、毎年六月中旬ともなるとその年の
夏期スケジュールが発表される。この年も恒
例の英語夏期講習会(夏期講習会については
第一号でも述べてある)が短大主催の昼の部
英語学校主催の夜の部と昼夜において開かれ
る。英文科第二部ができてからは、その他教
職課程集中授業、英語の教科教育法並びに教
育原理がそのあとに続き仲々第二部は夏休み
に入れない。教育原理の授業が行われる頃は
八月も中旬を迎え、毎年のように下町の祭り
と重なりお囃子が、盆踊りの音頭が南の風に
乗って三春台の丘を這い上り教室内にも流れ
込んでくる。当時講義を受けた学生はその様
子が浮かんでくることだろう。

七月十四日からは箱根中強羅「富士見荘」
で夏の修養会が開かれている。夏のキャン
プは、この年は、①入笠山、②池ノ平、③松原

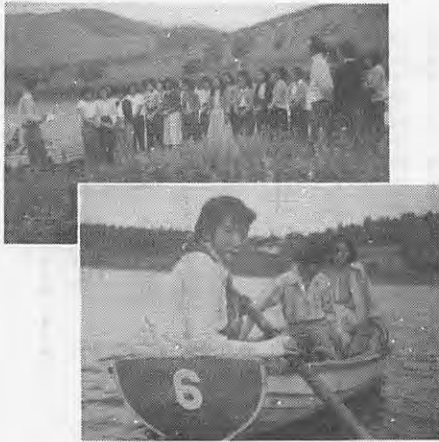
湖と候補地が三ツ話題になって、これらを学
生と教員とで検討していたが、県営の池ノ平
キャンプ場で七月十七日(木)より二十日(日)
まで実施することに決定した。当時父兄宛に
出したプリントには次のように書いてある。
「長野県諏訪郡北山村大門畔池ノ平高原。池
ノ平ホテル。費用千円(汽車賃、バス代、
宿泊料)携帯品、主食、副食、毛布、その他
雑品等々……」第五号の冒頭で述べたように
学外での行事、旅行には仲々参加できなかつ
た私にとって、この夏のキャンプは最初にし
て最後のものだった。そのため、二、三思
出して記してみよう。



中央線茅野駅で下車した一行は二台のバス
に分乗して約一時間二十分、胸ふくらませて
目的地に向った。普通キャンプといえは天幕
を張ってか、バンガローでの生活と思うが、
今回はホテルである。しかし、ホテルとは名
ばかりの長屋作りの山小屋だった。宿舎の前
には白樺の木々が水中より生えているとい
う人造湖が静かな水面を湛えて絵のような光景
だ。現在とほど遠い池ノ平高原、電気も電話
もない生活、しかし牛乳風呂は思わぬ収穫、
夜はランパの光の下でトランプを楽しむもの
語らい合うものなど自由な時間を過ごしてい
る。あるときなどは兵藤先生の名調子の怪談
辺りの雰囲気からいっても学生たちは大いにキ
モを冷やしたところだろう。相川先生(当時学長)
の夕拝説教に「……過去は必然である……総
べてのものに感謝して、人生を歩まねばなら
ない……。不平不満は慎むべきである……」
というお話、学生も真剣になって聞いていた。
さて翌日の午後、自由時間もなると湖水
にボートを浮かべてのひとときを楽しむもの
もある。相川先生もあるボートに分乗してい
たが、やがて岸辺に着いて舟から立ち上ろう
とした先生が突然尻餅をついた。見るとズボ
ンのベルト通しに紐がついていてボートの縁

に結んであったのが原因、学生の悪戯だろうし、しかし、学生は、すかさず「過去は必然、総べて感謝しなければなりません」と。

最終日は晴れ上って抜けるような青空、海抜一、六〇〇に位置する霧ヶ峰高原へ、上諏訪近くまで往復のハイキング、学生達も思いつくことのない青春を謳歌したことだろう。午後三時無事終了して四時のバスを待つことと暫し、午後五時になっても来ない。電話のない山は連絡の方法がない。約一里下に電話のある部落があるという。早速門根先生（体育担当）と共に山を下る。約一時間、下り坂の一時間は一里以上歩いた筈、一向に部落ら



しい気配にでくわさない。一日中歩いているので疲れも加わり、休もうと立ち止まると汗臭い軀に藪蚊の襲撃、止まることもできない。やむなく黙々と歩く。牛車が登場してきた。聞いてみると末だ約一里だという、田舎の人がいう一里は、二里のことかと思う、辺りは夕闇も一段と濃くなって、山の峰が墨絵のように空と、くっきり区分されている。若し予定通り帰えなければ大変なことだ。学生の各家庭へ連絡もしなければならぬなど考えたと疲れた軀や足のことをいっている場合ではない。奮起して歩き続ける。やつこのことで受話器を手にしたが、なんとガツカリした。バス会社は配車を忘れていたのだ。いくら陽気な田舎のバスでも約束は守って貰いたい。至急車の手配を頼んで待つこと約四十分、バスはささやかな祭りの部落に到着、私達を乗せて名称通り霧が出始めた坂道を一目散に登って行く。一方宿舎では、連絡に出た二人が鉄砲玉、時間は刻々と廻り八時近くになる。皆諦めて、もう一泊する積りで父兄宛に電報を打つよう準備している折、すっかり霧に包まれた中に突然目玉二つのライトがぼーっと近づいて来たときは、実に劇的シーンだったと兵藤先生は語っていた。ガタガタ道を猛スピードで降るバスの中は、昼の疲れと今迄の

不安感が一度に解消したためか、学生達は、ぐったりとなっている。震動が激しくて積み上げられていたリックが崩れる。座席からすり落ちても、そのままの姿勢でぐっすり寝りこんでいる学生、誰か飲み残したカルピスの瓶が倒れ、床はベットリとして車内は甘ずっぱい臭いが漂っている。約一時間で茅野駅に着いた。予定では普通列車で帰ることになっていたが、急遽準備に替え、約一時間の延着で無事に帰ることができた。

当時の学生には思い出となったキャンプではなかったろうか。

(つづく)



五十年度

總會報告

—安藤、井口両先生 の感謝会をかねて—

初めて学外で行なわれた香葉会総会はとて
も好評でした。例年通り六月の最後の日曜日、
二十九日に、横浜中区のバンドホテルで開催
されました。今回は、井口・安藤両先生の感
謝会も兼ねさせていただきました。「ホテル」
という名の魔力のためか、いえいえ、両先生
の魅力のために、出席者も約一六〇名と、例
年になく多数でした。

午後一時、古城房子会長のあいさつにつづ
いて、佐藤恭子さん「昭和二十九年卒」の司
会による礼拝で始まりました。井口・安藤両
先生愛唱の讚美歌を全員で歌った時、その響
きの中に、重さというか力強さというか、そ
んなものをおぼえ、これが短大の歴史じやな
いのだろうか、ふとそんな気がしました。

次いで事務的な総会議事に入りましたが、

決算、予算は原案通り承認され、また、来年
度より、新会員の会費を一期千円に、合計四
千円（現行は一期八百円、計三千二百円）に
する件、および、会誌「香葉」六号から、振
込用紙を入れて、一口五百円の賛助金をお願
いするという件も合わせて承認されました。

この間わずか三分。株主総会だつてもう少
し長いなどという声も聞かれたとか。もちろ
ん、この内容については、各年度から選出さ
れている評議員による評議員会で十分に討議
されてますし、会計監査も受けてますので。
念のため。

ここで第一部が終り（約二十分）、少し休
憩。その間、皆さんは食べ物をとりに席をた
たれたわけですが、その楽しそうな顔といつ
たら、第二部は植村答子さん「短国四十九年
卒」の司会による感謝会と、それにつづく卒
業生と先生方、また、卒業生相互の話に花が
咲きました。

林先生、瓜果先生による井口・安藤両先生
の紹介、卒業生よりの花束ならびに記念品（ア
ルバム、真珠の帯留、金一封）の贈呈につづ
いてあいさつをされた両先生のお若いこと。
「まだこれからさんしょ」なんて声があちら

こちらから。

三時三十分定刻通りお開き。また来年も出
席しようよ、ねえ。協力して下さった学内外
の関係者、特に古城会長さん、ごころっさん。

次の先生方が出席して下さいました。

下田学長・安藤先生・井口先生・林先生・瓜
果先生・岡松先生・宮川先生・望月先生・渡
辺先生、上市事務長。なお、加藤関東学院理
事長・高梨合同同窓会会長も列席して下さい
ました。

なお、両先生への記念品代をお寄せ下さい
ました方々（三百余名）に深く感謝申し上げ
ます。ありがとうございました。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆
〔御園記〕



関東学院女子短期大学 香葉会

昭和 49 年 度 決 算				50年度予算
収 入 の 部	子 算	決 算	増 減	収 入 の 部
会費(@3,200円×402名)	1,286,400	1,286,400	0	(523名) 1,673,600
合同よりの援助金 (@1,000円×402名)	402,000	402,000	0	523,000
前年度よりの繰越	580,674	580,674	0	105,623
そ の 他 雑 収 入		3,357	3,357	
合 計	2,269,074	2,272,431	3,357	2,302,223

支 出 の 部	子 算	決 算	増 減	支 出 の 部
事 業 費	650,000	650,628	△628	600,000
総 会 費	170,000	177,018	△7,018	180,000
会 合 費	70,000	83,260	△ 13,260	60,000
通 信 費	60,000	30,000	30,000	40,000
交 通 費	40,000	44,200	△4,200	60,000
事 務 印 刷 費	60,000	31,602	28,398	30,000
給 与 費	340,000	418,950	△ 78,950	460,000
新 入 会 員 歓 迎 費	80,000	67,500	12,500	90,000
そ の 他 雑 費	66,474	26,990	39,484	20,000
予 備 費	110,000	14,060	95,940	32,323
合同分担金 @1,300円 (402名)	522,600	522,600	0	(523名) 679,900
基本金勘定へ繰出	100,000	100,000	0	50,000
次年度への繰越		105,623	△105,623	
合 計	2,269,074	2,272,431	△3,357	2,302,223



おたより



赤ちゃんを抱かれた方、六年生のお子様がおありの方、独身生活を満喫されている方、皆さんとてもおしあわせそうでした。

上市先生よりの最近の学生の様子、「子供を過保護にならぬよう育てた方が如何に良いか」などの有意義なお話があり和やかなうちに三時間程はいつの間にか経ち、夕食の仕度を気にしつつ折からの小雨に濡れる古都鎌倉を後に再会を約束して散会致しました。

(短家・三十七年卒 旧森)

江上真理子

前略「香葉」五号をお送りいただき、ありがとうございます。大城先生の訪問記をはじめ大変なつかしく拝見しました。国文科の方々の消息が少ないのは少し寂しい気がしました。

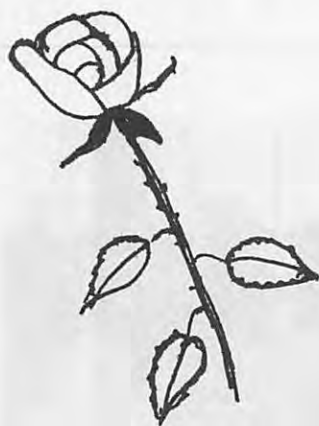
私は昨年退社し、自宅のできる仕事をと考え、東京へ、トレースを勉強しに行っております。従って現在は気楽な身分で、自由な時間を満喫しています。

(短国・四十六年卒)

清水桂子

関東学院で学んだ時には衝激を受けました。

七夕選挙の行なわれた昨年七月七日、十一回家政科卒の七回目クラス会が中桐寮に於て開かれました。出席者十七人、お子様五人で久しぶりに懐かしい上市先生を囲んで楽しいおしゃべりの時を過ごしました。皆さん良いお母様になられて何年ぶりかの再会ですのに、お子様の話には特に力がこもるようでした。



「これで一生は決まった。」と思ったのです。随分大袈裟のようでもあり、私自身、具体的に何がどういうふうにならなかつたかも、よくわかっていなかったのですが無意識に、そのような気持が湧き上ってきたのを今でも覚えています。

卒業してから既に七年程になります。学生時代に教わったことを再び辿っていくにつれ何年も前のことが生き生きと現われ、自分にとって近いものになり忘れられないものになつていくのに驚いています。これからも努力して歩んでいきたいと思っています。

(短国・四十三年卒)

母校ニュース



五十年年度体育祭

短大独自の体育祭として始まった第三回目的

の体育祭が六月十一日(休)・十二日(休)の二日間で行なわれた。今年度はバレーボールの他に卓球も加わり、各クラス・教職員が勝敗を競った。なお今年度は教員チームの奮戦がめざましく、現役の強敵をものともせず卓球では優勝・バレーボールでは第四位と総合優勝をおさめました。

優勝チームは次の通りです。
バレーボール(二十七チーム)
優勝—国一A・準優勝—国二A・三位—幼二B・三位—英一A
卓球(二十八チーム)
優勝—教員・準優勝—英一C・三位—幼一A・三位—英二C

☆第二十四回シェイクスピア英語劇公演
大学・短大共催のシェイクスピア英語劇の五十年年度の催しものは「ウインザーの陽気な女房たち」に決まり、十一月十九日(休)・二十日(休)(昼の部・夜の部)横浜の県立青少年ホールにおいて上演予定です。皆様ぜひご観劇下さい。

☆クラブ紹介

▽書道部

書道部の主な年間行事としては、六月上旬に文化強調週間・下旬にわらべ書展(学外展)・九月に一週間にわたる夏季合宿・十一月の短大祭などが活動の中心で、毎週水曜日には部会・木曜日には壇家を囲んでの批評会を開いて、各自の技術向上をはかり、またクラブ内の親和を深めています。

▽E・S・S・部

我々E・S・Sは新入生をむかえて、にぎやかにやっています。活動は、お昼休みにNHKの英語会話・午後は、ティスカッション・スピーチなどいろいろとやっています。部室では絶対に日本語をつかってはいけないとい

退職

家政科—井口安喜子先生

幼児教育科—安藤寿々代先生・佐藤三郎先生

英文科—高橋博先生

一般教育—島村環先生

家政科—飯野尚志さん(短家四十八年卒)

教務科—奥村悦子さん(短英四十四年卒)

庶務科—栗田明美さん(短国四十八年卒)

それぞれの道に進まれることになりました。

新任

幼児教育科—村上顕先生・朝倉陸夫先生

英文科—乾幹雄先生

家政科—富和美智子先生・金田明美さん

(短家五十年卒)・渡辺ミサ子さん(短家五十年卒)

入試課—福地勢津子さん(短英五十年卒)

教務課—伊藤珠さん(短国五十年卒)

庶務課—小糸美子さん(京浜女子商業)

四十七年卒)

学寮—石川智子さん(短家五十年卒)

以上の方々が母校の発展のために貢献なさつ

ていらっしやいます。

うことで、一同がんばっています。

▽茶道部

現在の部員数は十四名で、薄茶平点前を中心に一同足のしびれにも負けず、それぞれ稽古に励んでいます。また、道具や点前に関する研究発表をやり、少しでも茶道の心というものを理解しようと努力しています。短大祭までには、棚点前も身につけたいと思っています。まずし、茶碗作りも計画されています。

▽箏曲部

私達箏曲部は、月一回の定例会を目標に、練習をしています。部員は現在十八名、一・二年生仲良くやっています。単に技術向上のみを追うのではなく、落語研究会・防衛大・横浜市大などの合同ハイキングなども行い交友を深めています。今年は老人ホームなどの慰問も予定しています。

▽美術部

現在部員は九名、でも十月の燦美展をめざし今からハッスルしています。毎週二回あるクロッキー・六月は学部と合同スケッチハイク・夏には山中湖での合宿も予定しています。皆、昼休みに部屋に集まって部会を兼ねてのタペリー会、各部員の創造性を十分発揮できる、そんなクラブ作りにはげんでいます。

▽ハイキング部

私達は野外生活を通して、広い意味での日本文化に触れる事を目的としています。合宿を中心として部員同志の親睦を深め、特に春・夏に長期合宿・その他月に一度短期合宿・年に二度学部と合同で丹沢にてハイキング祭・清里にて追い出しコンパを行ないます。

▽バスケット部

短大ともなると、運動関係のクラブに所属する人が少ない。そんな中で、我バスケット部も人員確保がまず先決問題でした。現在では、どうやら部員が九名集まり、活動を続けております。これからは一試合ずつ土台を築きあげてゆきたいと思っています。私達は大好きです——汗を流し、ボールを追う瞬間が。

▽硬式庭球部

週三回、コートと共に多数の部員で活動中です。今年から部に昇格し、同時に学連にも加盟したので、幅広い活動が期待できそうです。テニスを通して得るものが多く、特に対外試合においての他校との交流は、豊かな人間関係をつくり、また部内での様々な経験は一生の思い出になることでしょう。

▽軟式庭球部

私達軟式庭球部は、春と秋に行なわれるリ

ীগ戦や、選手権などの試合に向って、毎日練習しています。現在、部員が少ない為、練習にも事欠いている状態ですが、部員の横のつながりを大事にしてゆきたいと思っています。どうぞ先輩方もコートにいらして、私達といっしょに汗を流してみませんか。

編集後記



一冊の本を作り上げるための苦労と喜び。六号の出来はいかがでしょうか。ご協力下さいました方々ありがとうございました。写真は「香葉」六号の編集委員です。右より小糸・高橋・成川・田中・田辺・江口です。

関東学院女子短期大学

推薦入学	面接日	12月13日(土)	
推薦入学	面接日	1月18日(土)	
一般入学	試験日	第1期	2月6日(金)
		第2期	3月5日(金)

英 文 科	家 政 科
語学コース	家政専攻
文学コース	食物栄養専攻
国 文 科	幼 児 教 育 科

取得資格～中学校教諭課程（英語・国語・家庭・保健）幼稚園教諭課程・司書教諭課程・栄養士課程・司書課程・保育課程

毎週木曜日本学入試課で進学相談および施設案内をしております。

☎236 横浜市金沢区六浦町室の木77 ☎045(701)3189(代)
案内書・送料共370円 請求および問合わせ先・本学入試課

香 葉 第 6 号

昭和50年9月10日 印刷・発行
関東学院同窓会・香葉会
代表者 古城 房子

横浜市金沢区六浦町4834 郵便番号236
関東学院女子短期大学内
電話（横浜045）781-2001（代表）
781-0148（直通）

関東学院同窓会・香葉会誌